

うめナビ

2012.7
Vol.4

ホットランナーで アジア制覇を狙う 大田区のグローバル中小企業

ファイサ(大田区池上、斎藤進社長、03・3754・0661)は、ホットランナー(プラスチック樹脂の射出成形金型に組み込む特殊ノズル)製造販売を行い、自動車・白物家電の金型製造メーカー、成形メーカー等を顧客としている。

同社製のノズルは、バネと樹脂の圧力でピストンを動かすことでゲートを開閉し、樹脂を流し込む仕組みになっている。他社では外部駆動装置を取り付け、無理矢理ゲートの開閉をするので、金型が厚くなったり、無理が生じて樹脂漏れが発生してしまう問題があった。同社製ノズルを使用した金型は、精密で形の良い製品づくりが可能で、従来の成形過程で発生するランナーと呼ばれる不要部分無くすることができ、環境面でもコスト面でも優れた商品になっている。また、壊れてもすぐにメンテナンスが可能で、修理時間がかからない。他社製品とは雲泥の差だ。

モノづくりの街、大田区では大手企業による生産の海外シフトや、これに伴う技術力の海外流出等もあり、厳しい環境のもと、製造業者が激減しているが、同社は2008年に中国、翌年にタイと



「世界で勝負できる体制を構築したい」と斎藤社長

今後の事業展開について斎藤社長は、「日本・中国・タイの3カ国を軸に、まずはアジア制覇を成し遂げたい」「日本のモノづくりの文化でもある信頼、品質の維持はもちろん、製品開発や価格面においても、世界で十分に勝負できる体制を構築したい」と力強い意気込みを話す。



主力商品のホットランナー

ファイサ

海外に活路を見出してきた。特にタイでは長年多様な金型を取扱ってきたノウハウを活かし、金型メンテナンス事業を展開。昨年、現地で発生した洪水の影響もあり、自動車金型メーカーからの注文が殺到。これを機に、将来的な受注増につなげる計画だ。同社の商品は、海外で製造しながらも、主要部分は日本で製造している。海外で受注が増加すれば、日本が潤う仕組みになっているだけでなく、技術力の海外流出を防ぐことにもなる。同社は、「グローバルな中小企業」として数々のテレビ番組・新聞等で紹介され、注目を集めている。

どんな壁でも挑戦します 「吸盤戦士ののぼる君」 未来を創るロボット製造業

小川優機製作所(横浜市保土ヶ谷区坂本町、小川安一社長、045・332・2721)は、1960年の設立以来長年に亘り、コネクタ・並びに設備関連機器の受託生産を行っている。それらを通じて培ってきた技術力を背景にして製作したのが「吸盤戦士ののぼる君」である。

「のぼる君」は、ビル・マンション等の建物の壁面を電気真空パッド吸盤で吸着しながら上下に走行し、高層ビルの窓清掃や壁面補修、塗装、壁面診断等を行うために、他社のアプリケーションと組み合わせ使用することを念頭に開発されたものである。平成20年の建築基準法の改正により、ビル・マンション等のメンテナンス補修検査が義務づけられたこともあり、活用用途が広がることが期待されている。



日々進化を遂げる「吸盤戦士ののぼる君」

足場を作るのに一棟のビルでは250万円程度の費用がかかる。ところが、同社のロボットを使えば、足場の必要性がなく、約5分の1程度の費用に抑えることが可能だ。「のぼる君」の将来へ向けての研究や事業化に向けては、パートナー企業との共同作業による成果達成を志していきたい」と小川社長は語る。



「のぼる君」の生みの親の小川社長

小川優機製作所

うめナビ 送付先業種												合計 178先
	商社 3先	スーパー・小売・百貨店 7先	メーカー 16先	マスコミ 43先	教育(大学・専門学校) 23先	公共機関 11先	ホテル 11先	金融 12先	建設関連 12先	システム関連 5先	その他 35先	

※本誌は、城南信用金庫のお取引先に配布する他、商社、百貨店、スーパー、メーカー、マスコミ、大学等にもお届けしています。

創業100年をめざして 社員全員おもてなしの 気持ちを

増田屋

外苑前増田屋（港区北青山、鈴木章司社長、03・3403・5521）は、神宮球場や秩父宮ラグビー場のある銀座線外苑前駅を降りてすぐのところにあるが、増田屋という暖簾は外苑前以外にも東京、神奈川、埼玉を中心に130店舗ありある。平日のお昼は、近隣にお勤めのサラリーマンやOLで来店は大忙し。また、神宮球場が近くにあるため、野球観戦のお客さんも多く来店している。

同社のこだわりは、「老若男女問わず、全てのお客様に安全・安心な商品を提供すること。そのために商品の品質管理の徹底はもちろんのこと、先代から引き継いだオープンな雰囲気大切にしており、安心してご利用頂ける様に、お店の道路面をガラス張りにして、調理場の作業もできるだけ全てのお客様に見えるようにしています」と社長は語る。

また、「おもてなしの心でお客様に喜んで頂く」ことを経営理念におき、元氣な挨拶や明るく丁寧な接客を心掛けています。接客する社員だけでなく調理場にいる社員も常におもてなしの気持ちを持つことを徹底しており、気温や湿度、天候などにより蕎麦のつくり方を微調整し、お客様が一番喜んで頂ける蕎麦を提供している。

この夏のイチオシ商品は完熟トマトをふんだんに使用した「冷製完熟トマトそば」。サラダ感覚で蕎麦を楽しめることに加え、トマトは栄養価が高く、暑くなるこれらの季節にピッタリ。ぜひ一度ご賞味を。三代目社長は、「青山の地に初代が開業して今年で73年になります。これからも青山でおいしい蕎麦をお客様に提供し、創業100年をめざして頑張ります」と熱く夢を語る。



店舗は外苑前駅至近にある



この夏おすすめの「冷製完熟トマトそば」

まかない料理が大ヒット！ レトロな雰囲気の店内で味わう 癒になる広東料理

酔來軒



店内はレトロな雰囲気を醸し出している

商品である。これを求めてわざわざ遠方から来店される方も少なくないが、実は元々は従業員のまかない料理であったとのこと。

他にも、ミニトマトの入った肉団子やワンタンメン等、豊富な名物メニューを取り揃えているが、驚くのはそれらのほとんどが良心的な値段で設定されていることである。その理由を聞くと「メニューの値段をつくり直すのが面倒だから」と冗談交じりで語る曾秀瓊さん。本当のところは、多くのお客さんに何度も来店してもらいたいので価格を変えたくないそうだ。

「美味しいものを安く提供する」と「満足して帰ってもらい、また来店してもらうこと」。このこだわりと、明るく気さくな人柄が、いつも賑やかな空間をつくり出しているのだろう。ちなみに、野木店長の最近のブームは「名酒」を集めることで、紹興酒を始め数多くのお酒も取り揃えている。横浜が誇る名店「酔來軒」、今後も注目のお店である。

店一番の人気メニューは、酔來軒。大きな丼にチャーシュー、メンマ、モヤシ、ネギ、そして半熟目玉焼きと醤油・ごま油ベースの特製タレが乗せられたものだが、ご飯と具をしっかりと混ぜ合わせて食べるのが一番おすすめの食べ方と野木店長は言う。具が特製タレと絶妙に絡み合い、あっさりした味で、一度食べたら癖になる。しかも400円という良心的な値段で、男女問わず幅広い年齢層に人気の



人気メニューの「酔來丼」

納品先のニーズに応える姿勢を続け、 数々のヒット製品が 生まれる

いち早く自動車用LEDランプの開発・製造に着手

ドーワ

ドーワ（世田谷区成城、古田光芳社長、03・3417・7611）は、普通自動車、トラック用のランプ類、ガソリンタンクのキャップ等の部品の製造販売をメインの事業とし、それ以外にも建設車両、除雪車両といった特殊車両の部品、農機具などの産業機械の部品の製造販売も行っており、堅調な業績を収めている。

昨年の震災以降、節電のための家庭用LED電球の売上が急速に伸びているが、同社では、震災以前より自動車用LEDランプの開発、製造に着手してきた。通常のランプと比べ、大幅にバッテリーの負荷を軽減できるLEDランプが急速に普及しており、12W電球1個の消費電力で15個の点灯が可能なたらック用LEDサイドマーカーランプは「超省エネ・長寿命」を売りにヒット製品となつてい

る。自動車用ランプのLED化は、今後ますます進むことが見込まれることから、同社では、カラーや口



トラック用LEDサイドマーカーランプ

金の種類を増加させるなど、オリジナルLEDランプの開発、製造に力を入れている。

「当社が50年以上の永きに亘って業務を続けてこられた最大の理由は、納品先である自動車修理工場や自動車部品問屋といった車に精通された専門家一人ひとりの声を信じ、常にお客様のニーズに対応してきたことにあります。その結果、常に時代の流れにマッチする製品を手掛けることができている」と古田社長は思いを語る。その言葉通り、同社は、製品の開発にあたって、メーカーの自己満足のために製品を開発することなく、一貫して納品先との意見交換を重視し、エンドユーザーのニーズにかなうアイデアや要望を積極的に取り入れてきた。その結果、数々のヒット製品が誕生し、厳しい経営環境の中でも、安定した業績を維持することができており、「今後も、納品先との二人三脚による開発を続け、事業を継続展開していきたい」と古田社長は話す。



「今後も、納品先と二人三脚で事業を継続展開していきたい」と古田社長。

毎日暖簾をくぐりたくなる 親しみのある味とおもてなし 3代目が守る伝統の蕎麦が自慢



蕎麦処 田毎

東京都大田区長賞・東京都知事賞・(社)日本食品衛生協会会長賞等を受賞。お客様の安心と健康を第一に考え、厳選した食材の使用や食品衛生管理体制の充実に努め、日々精進している。「社員一人ひとりが一丸となって食品衛生の意識を持ち管理体制の充実に努めたことが、名誉ある賞の受賞につながったと考えています。これからも社員一同、現状に甘んじることなく、更なる食品衛生の向上に努め、常にお客様の健康を念頭に歩んでいきたい」と有山社長は話す。

創業90余年の老舗が打つ昔ながらの二八蕎麦「蕎麦処 田毎(たご」と)(大田区羽田、有山朗社長、03・3741・0394)は、3代目が伝統の蕎麦の味を守る、マスコミでも度々取り上げられる人気店。老若男女幅広い年齢層にお楽しみ頂ける。昼休みには、サラリーマンやOLが行列をつくることも。京浜急行空港線大鳥居駅東口徒歩1分(駐車場有)で、もり・かけが560円とリーズナブルで、親しみやすい味、毎日暖簾をくぐりたくなる笑顔溢れるお店の雰囲気がお客様の心を掴む。

人気商品は、長年に亘り愛され続けている「天せいろ(昔ながらの二八蕎麦と天ぷら)」。しっかりとコクのあるつゆとマッチして味わい深い。素材を引き立たせたサクサクとした美味しい天ぷらも魅力。他にうどん・丼物・一品料理・オリジナルメニューも豊富。また、食品衛生優良施設として、



人気商品の「天せいろ」

ボリユーム満点! 秘伝のからしがおいしさを後押し 備長炭を使用した本格もつ焼き店



もつ焼きの中でも「かしら」と「ボヤ」が人気だ

忠ちゃん

忠ちゃん(川崎市多摩区西生田、川崎昭店長、044・953・9414)は、小田急線読売ランド前駅南口から徒歩2分の所にあるもつ焼き店。昭和39年の創業以来のこだわりは、紀州の備長炭を使用した炭火焼きである。同店のもつ焼きは他店と比べ具の大きさがおよそ3倍もあり、ガスの火力では中まで火が通らないため、紀州の備長炭が欠かせない。それについて一串130円というお値段!また、同店のもつ焼きにはお好みで特製からしを付けることができるが、つくり方は企業秘密とのこと。このからしともつ焼きとの相性が抜群である。

もつ焼きの中でも、「かしら」と「ボヤ」が人気。「かしら」は噛むと肉汁が溢れ出し、肉のうまみが口いっぱい広がる。「ボヤ」とは、サツとあぶったレバーのことで、外は香ばしく、中はレアでとろけてしまうほどで一度食べるとやみつきになってしまう。もつ焼きの



もつの味を守り続け、炭火焼に命をかける川崎店長



人気メニューの「もつ鍋」は予約が必要

他に、人気のもつ鍋(要予約)は1年を通して楽しめるが、当日の注文では対応できないほどである。鍋を食べ終えた後、締めは秘伝のダシで頂くうどんは絶品。こうした一品を求めて、プロ野球のオフシーズンには、読売ジャイアンツ球場で練習を終えた巨人軍の選手も数多く来店するそうだ。

現在の店長は二代目となるが、50年近くも当地でもつの味を守り続けている。「もつ焼きは炭が命」と何よりも炭火焼に命をかける川崎店長。言葉は要りません!他では味わうことのできない本格もつ焼きを是非ご賞味あれ。

健康は質の高い眠りから 天然素材を大切に安心と 真心で寝心地を売るお店

(株)富士屋寝具店

お客様一人ひとりの快眠と健康を、親身になって考えてくれるお店―東急田園都市線鷺沼駅より徒歩3分、さぎ沼商店会に(株)富士屋寝具店(川崎市宮前区鷺沼、築野千明社長、044・866・0324)はある。築野社長は、私たちの暮らしの中で大切な睡眠についての心強いコンシェルジュであり、常にお客様に気持ち良い睡眠を提供すること、寝る文化を通して地域の健康に役立つことを考えている。

築野社長が最もこだわったのは、商品の素材。新しい一日を始めるのに必要な活力は、眠っている間につくられるが、それを生み出すのに理想的な寝床内気候は湿度55%、温度33±1℃だそう。加えて、寝る人の姿勢も考慮すると、それらを実現する寝具は、天然素材が最も優れているという考えに至った。

同店では、お客様に合った寝具を選ぶのに、どんな睡眠環境(昼敷



睡眠の心強いコンシェルジュ、築野社長(右)



店内ではお客様に質の高い眠りを提案している

日本の水なし印刷をリード 心をつなぐ印刷物を 地球にやさしい技術で提供

文星閣

大田区に本社・工場を構える文星閣(大田区久が原、奥継雄社長、03・3754・8370)は、大正元年に新宿で出版会社として設立。第二次世界大戦で工場や機械が焼失したが、昭和23年に大田区北千束で新たなスタートを切り、着々と事業を拡大してきた。

同社の一番の特徴は、有害な廃液を一切出さずに、現像処理後の排水を下水に流せる、環境にやさしい「水なし印刷」という印刷方法。この「水なし印刷」を業界の先陣を切って1985年から導入し、以来20年超に亘り業界をリードしてきた。2001年にはアメリカに本部を置く水なし印刷協会「WPA」にいち早く加盟、さらなる技術の向上を図っている。

同社は、2002年に環境方針を策定し環境保全に取り組んでいるが、その後も、「水なし印刷」に加えて再生紙、非木材紙、無塩素パルプ紙の採用や、大豆油インキ、脱墨が容易なUVインキの使用、PP加工から光沢ニスへの転換、さらには中間材料の削減につながる取組みや産業廃棄物リサイクルも進めることで、より環境に配慮したトータル環境対応印刷システム、BEP S (bunseikaku ecology printing system)を展開。このBEP Sの推進こそ、環境方針の要であることを社員一人ひとりが自覚し、活動している。そのため、環境方針の理解と意識の向上に

ついて、社員だけでなく、取引業者にも徹底されており、より良い印刷物の提供や、省エネ、リサイクルといった取組みだけでなく、地域社会の一員として、環境啓蒙活動を積極的に実施し、地域に貢献している。こうした取組みの結果、2004年には(社)日本印刷産業連合会「印刷産業環境優良工場表彰」の「経済産業省商務政策局長賞を受賞している。



奥社長と「水なし印刷」であることを示す蝶のロゴマーク

「環境問題への取組みは我々の使命。『水なし印刷』は技術的にも難しく、コストも割高となるが、長年この印刷方式にこだわり取組んできた。今では我々の取組みに多くの理解や賛同を得ることができ、数多くの印刷を手掛けさせて頂いております。今後も品質と環境配慮の両立を追求し、社会に貢献していきたい」と奥社長は語る。同社は創業以来、「心をつなぐ印刷物」を探究してきた。印刷物の電子化が進んでも、紙や活字を媒体としたコミュニケーションは必要不可欠である。地球環境に配慮しながら、「心をつなぐ印刷物」を提

供し続け、技術の向上による最高のサービスと品質でお客様の満足度を勝ち取るよう、今後もチャレンジングな企業を目指していく。

花はやさしき、花は安らぎ 買われる方、贈られる方の、 笑顔をお願いながら...

馬込シクラメン園

馬込シクラメン園(大田区中馬込、波田野園長、03・3771・5901)は、国道一号線、馬込橋交差点より徒歩5分程に位置するシクラメン農家である。シクラメンの原産地はギリシャなどの地中海沿岸地方で、日本には明治時代に伝わり、一般に普及したのは戦後の昭和30年頃からだと言われている。波田野園長が、園芸高校在学中にシクラメンに魅せられ、昭和28年に岐阜県のシクラメン農家から種を譲り受けて栽培を始め、約60年の実績をもつ。

シクラメンは栽培期間が長く病気に弱いので、育てるのが難しいとされているが、独学で病気に強い品質のシクラメンの栽培に成功。高品質の秘訣は、「土の配分」と夏季に「涼しい場所へ移動させる」ことで、つぼみが多く、花が長持ちするシクラメンが育つ。現在は息子さんとともに精を出している。



11月には見事なシクラメンが咲きほこる

同園のシクラメンは9月に種を蒔き、翌年6月頃まで馬込の温



波田野園長と息子さんと手塩にかけてシクラメンを育てる

室で苗を育てる。暑さに弱いため、7月〜9月の暑い時期は、茨城県筑西市へ移動し、10月には再び馬込へ戻す。10月下旬には咲き始め、見ごろを迎えるのは11月下旬になる。約13カ月間かけて大切に育て、その間の鉢の植え替えは4回にも及び、丹精込めて育てた結果、見事なシクラメンへと成長する。

同園では毎年25品種、約8000鉢を栽培しており、品評会では多くの賞を受賞しており、メディアからも注目の的。シクラメンの販売は大半が農園での直売であり、観賞用・贈答用として固定客が多数購入していくとのこと。シクラメンは5月頃まで花を楽しめるが、上手に育てれば翌年も球根から芽を出し、綺麗な花を咲かすことができ、上手な方だと5年は咲かせることができるといふ。皆さんもシクラメンを見ながら、心温まる安らぎを味わってみてはいかが?

職人の知恵と最新の技術で時代を継承 古今の技術を併せ持った 建築家集団を目指す

郷建設

郷建設(目黒区祐天寺、豊中邦嗣社長、03・3713・7610)は、昭和18年創業、主に一般建築工事、歴史的建造物の修理・復元、建築設備工事を業としている。創業時は大工棟梁として主に数奇屋建築を手掛けてきたが、現在は低高層ビル、マンション、店舗、学校、工場等、時代の最先端を行く工事も手掛ける。そうした中でも同社は、ベースとなる木工事の技術を守り続けている。



「棟梁としての志を維持し、近代建築にも携わっていく」と豊中社長(中央)と奥様(左)、専務(右)

同社は数奇屋大工としての技術を伝承するため、歴史的建造物の修復・復元・復元新築を数多く手掛けています。「棟梁としての技術、志を維持するとともに、近代建築の分野に棟梁が携わる姿勢を守っていききたい」と、豊中社長は考えている。それ故、材木の調達には材木屋任せではなく、日本全国に足を運び、実際に丸太や立木の状態から選別を行い、用材を選定するこだわりがある。また、復元技術の一つであるタイルの復元では、100年前と同じ焼きあがりにはすることが



復元整備に携わった旧浜離宮庭園「松の茶屋」

も不要なため、お客様から好評だ。同社には、これからの古今の技術で人々の快適な暮らしづくりと日本の歴史・伝統の維持、継承をめざすことが期待される。

不可能だったが、同社は木材を古色仕上する技術をタイルに応用することに成功した。こうした高い技術は、INAX常滑工場にも提供され、阪神淡路大震災で被害を受けた神戸北野異人館の復元に役立つという。東大寺文化センター新築の際には、木工事図面作成に全面的に協力。使用木材は、防蟻・防虫・防蟻・防割の性能を持つ、200年使用できる処理材木として、日本不燃木材会社と開発協力したものだ。さらに旧浜離宮庭園「松の茶屋」復元整備の際は、完成当時、材料と工法を忠実に再現したものととして新聞に紹介され、大きな話題となった。建築設備工事の分野において